

議 事 録

会議名	令和元年度 第3回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	令和2年2月19日（水曜日） 10：00～11：40		
開催場所	寒川町健康管理センター 1階 予防接種室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>出席委員：三澤委員（委員長）、中間委員（副委員長） 小西委員、小黑委員、菊地委員、森委員、佐藤（敬）委員、鳥山委員、彦根委員（9名）</p> <p>事務局：亀山福祉部長 鈴木福祉部参事兼高齢介護課長 仲手川副主幹 後藤主任主事、柏木主任主事、竹花主事</p> <p>社会福祉協議会：浅野生活支援コーディネーター</p> <p>傍聴者数：なし</p>		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター活動報告 岡田県営住宅地域におけるブレインストーミングの結果について 介護予防・日常生活支援総合事業の再編と通いの場について 		
決定事項	生活支援コーディネーターは継続して、岡田県営住宅地域における情報の収集と整理を行う。手法としては、今回のブレインストーミングの他、ワークショップの開催なども行う。また、寒川町として、「高齢者の介護予防に資する通いの場」を地域に増やす取り組みを行っていくが、来年度以降の会議では本格的に委員から意見を頂戴していく。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>< 議事前段の進行 ></p> <p>○委嘱状交付 菊地委員、鳥山委員</p> <p>○委員長挨拶 三澤委員長</p> <p>○議事録署名委員確認 菊地委員、鳥山委員</p> <p>< ここから議事 ></p> <p>議題1 生活支援コーディネーター活動報告</p>		

浅野生活支援コーディネーター（以下「Co」と表記）：【資料2を用いて、令和元年11月から令和2年1月までの活動内容について報告】

三澤委員：このとについて、何か意見や質問などはあるか。

中間副委員長：今、コーディネーターから、住民が活動を行う際に加入する保険について話があったが、シニアクラブ連合会としても、現在、自分たちが活動する際の保険について、関心をもっている。町が町民の活動のためにかけている保険があるが、その詳細について町職員から教えてもらう勉強会を予定している。その保険の適用範囲などが気になっていて、シニアクラブ連合会で行う事業等についても、その範囲内になるのかなどを確認したいと思っている。

浅野Co：今仰られたのは、町の協働文化推進課の住民活動補償制度について、ということか。

中間副委員長：そのとおり。

菊地委員：今のお話だが、住民活動補償制度は、対応が可能な範囲が狭く、補償額も少ないイメージがある。民間の保険の代替に出来るかは疑問がある。浅野コーディネーターも言われたように、この制度のみならず、地域の方が活動する際に必要な保険等については調査して、必要な方に情報を提供することが出来るようにするべきだと思う。

中間副委員長会長：シニアクラブ連合会に所属する各単位クラブでも、それぞれの活動に対する保険のかけかたはそれぞれで、全くかけていないところもあれば、個人ごとの選択制でかけているところもある。

三澤委員長：ボランティア連絡協議会などは、活動に対する保険などはどうか。

小黑委員：ボランティア連絡協議会は、社会福祉協議会が事務

局となって、保険をかけていただいている。

事務局：住民活動補償制度は住民の活動を対象とするが、特定の要件があったはずである。他課の所管する制度であるが、シニアクラブ連合会の勉強会においては、担当から詳しく説明をしていただけるように、こちらかもお願いしておく。

議題2 岡田県営住宅地域におけるブレインストーミングの結果について

浅野Co：【資料3及び参考資料1から、岡田県営住宅地域におけるブレインストーミングの結果について報告】

三澤委員長：では、何か意見や質問などはあるか。

菊地委員：以前、このエリアで自主的にポスティングを行われていた方がお亡くなりになられるということがあった。シルバー人材センターとしても、自主的な活動の他に、広報さむかわのポスティングを仕事としてお願いするなどして、このエリアで精力的に活動をされていた方だったので、自治会長も落胆されていたことを思い出した。

また、外から見ていると、県営住宅というのは、非常にまとまっているという印象を受ける地域だったが、それでも、中に入って話を聞いてみると、これだけの課題が見えてくるのかと思った。この地域に限らず、他の地域でも、高齢化を考えると、町に頼るだけではなく、自分たちで出来ることは自分たちで行っていく必要があると思う。

中間副会長：シニアクラブ連合会としても、助け合い、担い手の養成を行っていきたいと考えている。そのため、まずはヒアリングを行ってみると、「助け合いたい」ということを言ってくれる人はいる。だが、そこから踏み込んで、実際に具体的にどうか、と尋ねると「気が重い」といった回答になる。

2月に、県老人クラブ連合会からの依頼で、シニア連主催の地域支援事業担い手養成研修という研修を開催したが、そこで、さわやか福祉財団による「助け合いゲーム」を実施した。困りごとを挙げ、それに対して解決できる人が申し出る、と

いった内容のゲームなのだが、先のヒアリングの経験からも、あまりかしこまった形ではなく、そういったゲームといったような形で研修を行うと、「助け合い」を考えやすく、上手くいくなるような気もしている。

三澤委員長：今回は、最も高齢化率が高い岡田エリアということで限定し、さらに追加で関わっていくということだが、他の地域においても、生活支援コーディネーターとしての働きかけを充実させていただく視点も忘れないようにしてほしい。

彦根委員：第1回のブレインストーミングの際には、学識経験者ということで、大学の教授が参加していただいているが、これは良いと思う。他の地域を把握されている方が関わると、そのエリアだけではない視点や情報を得ることができる。是非、継続的に関りをもっていただいて、節目でしっかりとした専門的な知識や根拠に基づいた助言をいただくことをお勧めしたい。

議題3 介護予防・日常生活支援総合事業の再編と通いの場について

後藤：【資料4及び参考資料2、3、4、5、6から、総合事業の再編と通いの場について報告】

三澤委員長：これについて、ご意見、質問などはあるか。

中間副委員長：通いの場のリストについてだが、年金受給者協会の活動もここに入れていただければと思う。麻雀を始めとして、様々なサークル活動が行われているはずである。あとは、レクリエーション協会の中にも、グラウンドゴルフやペタンクをやられている同好会があったと思うので、調査してみたい。

また、町の観光協会も催しをやられていたりすることがある。シニアクラブ連合会としても、事業の企画などをお願いすることがあるが、町内の史蹟などについて明るいボランティアの方がいて、ウォーキングの企画なども考えている。地域の中でも、似通った活動をされているところも多いので、ネット

ワークのようなものが出来ると面白いかもしれない。

三澤委員長：参考資料3で、高齢者の徒歩圏として半径500mの円を描いて頂いたが、これは元気な方であれば、ということであると思う。要支援者や事業対象者の方であれば、この範囲が、もっと小さいことも想定したい。介護保険では、5m歩ければ、歩ける人の範疇に入ってしまう。

菊地委員：私の母もそうだったのだが、シニアクラブに加入している方、身体の不調等が原因で活動が難しくなると、そこから辞めていくということがあると思う。シニアクラブの活動は、お身体が元気な方がメインになっていると感じるところもあり、そのような外に出かけての活動が難しくなった人のところに、訪問してお茶のみ話をするなどして、シニアクラブを辞めないような活動をしていただければとも思う。

中間副委員長：そのことについては、私も何かしたいと考えている。シニアクラブの会員数は減少傾向にあり、それは全国的なものである。介護保険の施設等に入ることを契機に、退会されるかたもいるので、私個人としては施設ごとシニアクラブに加入してもらって、訪問して何かを行うということも出来ないかとも考えている。現状、町内にも施設訪問型の友愛チームがあるが、そんなことも思っている。

菊地委員：施設訪問ということではなく、在宅に居る方への訪問を考えていただけないだろうか、と思う。在宅で生活されている、多少、身体が動かなくなった方が介護保険を利用せずに暮らしていけるための支援。そういうものが必要だと思う。

浅野Co：先ほどの話でも出た、岡田地域の自治会長も、在宅で閉じこもりがちになる方の心配をされていた。他市町村の例では、そのような閉じこもりがちの方のご自宅を近所の会場として通いの場としている事例もある。また、サロンや通いの場というと、身構えてしまうこともあると思うので、ちょっとのお茶のみ場、くらいの感覚で開始出来たらと思う。

三澤委員長：菊地委員が言われるとおりだと思う。施設に入らないように、お元気に町内でお過ごしいただくために、どのような通いの場が必要なのか、そのためには誰がどうすればいいのか、ということをお客様には考えていただきたい。

以前は、シニアクラブ連合会が友愛活動で在宅訪問を行っていた時代もあったと記憶しているが、関わり合いを拒否される閉鎖的な方も時世の流れで多くなり、下火となっていった。しかし、今この時代となったなら、そういった活動に理解を示し、協力的な方も増えてきているのではないだろうか。

そのような背景に目を向けつつも、では、我々は、この通いの場を、誰がどのようにしていくのかを考えたい。この我々の寒川町の規模と関係性なら、必要とされる身近な通いの場を創ることが出来ると思っている。

彦根委員：今回、初めて参加させていただいたが、少し会議をただけでも、通いの場の情報が出てくる、議題に対しての思いがある委員がいらっしゃる。そのことから、私もこの通いの場を創ることは出来ると思うので、それをどのように形にしていくのかという事になる。参考資料でも示されたように、国もかなりの自由度を与えているので、寒川町としての通いの場を、まずはモデルとして1つ創ってみることから始めてみてはどうだろうか。

また、開催の頻度についてだが、私は月1回でも十分な効果があると感じている。実際に、そのような通いの場へ毎月通っていた独居高齢者の参加がなかった際に、包括支援センターに連絡して、認知症の進行を把握できたという事例もある。

三澤委員長：認知症は早期発見が本当に重要だと思っている。そういった、通いの場による地域の見守り体制の構築も、地縁のある寒川町であれば、組み上げることが出来ると感じているので、今から動いて、将来的な介護保険料の増にも抑制をかけていけるようにしたい。

中間副委員長：これまでは、シニアクラブの会長会でも、どのように会員数を増やすかということに主眼がおかれがちだが、辞める人、辞めそうな人へのフォローということについても考

えていきたい。

事務局：補足で説明させていただくが、この通いの場の創出に際しては、一般介護予防事業における「介護予防講師派遣事業」を活用できればと考えている。本事業は、町が委託契約をしている事業者が、介護予防プログラムを実施する講師を派遣するもの。参考資料2のリストの中にも、民生委員の方が発起人となって、この事業を利用して開始された、大曲の通いの場を記載させていただいている。

本事業は通いの場を創り出すためのツールであると考えているので、委員の皆様の中で、本事業を利用していただけそうな方や団体をご存知であれば、生活支援コーディネーターまで、情報をお寄せいただきたい。

既存の通いの場については、皆様それぞれの目的があって運営をされていると思う。そのため、我々の「介護予防」という目的と同一の目的を持って運営していただける通いの場を増やしたいという考えもあり、是非、この事業の活用についても、継続的にご意見をいただきたい。

三澤委員長：民生委員さんが発起人となって、始まっているものは町内に意外と多い。小谷のお茶飲み会、お達者クラブなんかも民生委員さんが始められたもの。そういった住民主体の集まりが増えるようにしていきたい。

中間副委員長：一般介護予防の再編について、確認したい。高齢者健康トレーニング教室の料金はどのようになるのか。

事務局：トレーニングルームの利用料が3時間で400円。ただ、教室で利用する時間が1時間であるので、その点を考慮した金額になるように現在交渉中。

中間副委員長：了承した。

○その他

事務局：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、不特定多数の

	<p>方が訪れる町事業を3月半ばまで中止とする判断をした。一般介護予防事業では、元気はっけん広場、お父さんのためのアンチエイジング講座、高齢者健康トレーニング教室等が対象。また、在宅医療介護連携の多職種研修会、住民向け認知症サポーター養成講座についても中止としている。</p> <p>現在は、3月半ばまで、ということで判断をしているが、今後についても時宜を見て判断を行うことになる。</p> <p>三澤委員長：今後、継続の情報についてはどこで確認すればよいか。</p> <p>事務局：町ホームページで公開を予定している。ただ、高齢介護課の事業については、高齢者が対象であるものが多いので、それ以外の手段についても考えていく。</p> <p>(閉会)</p> <p>○副委員長挨拶 中間委員</p>
<p>配付資料</p>	<p>配布資料</p> <p>資料1 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議委員名簿</p> <p>資料2 寒川町生活支援コーディネーター活動報告（令和元年11月～1月）</p> <p>資料3 岡田県営住宅地域における生活支援サービスを考えるための調査について</p> <p>資料4 総合事業の再編と通いの場について</p> <p>参考資料1 岡田県営住宅地域におけるブレインストーミング実施概要</p> <p>参考資料2 寒川町 高齢者が行ける通いの場</p> <p>参考資料3 寒川町内 高齢者の通いの場マップ</p> <p>参考資料4 第47回社保審資料 抜粋 他</p> <p>参考資料5 一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会（第3回）資料より抜粋</p> <p>参考資料6 地域づくりによる介護予防を推進するための手引き（ダイジェスト版）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>菊地 彰良、鳥山 邦子（令和2年3月10日確定）</p>